

# アンケート調査概要

## アンケート調査の目的

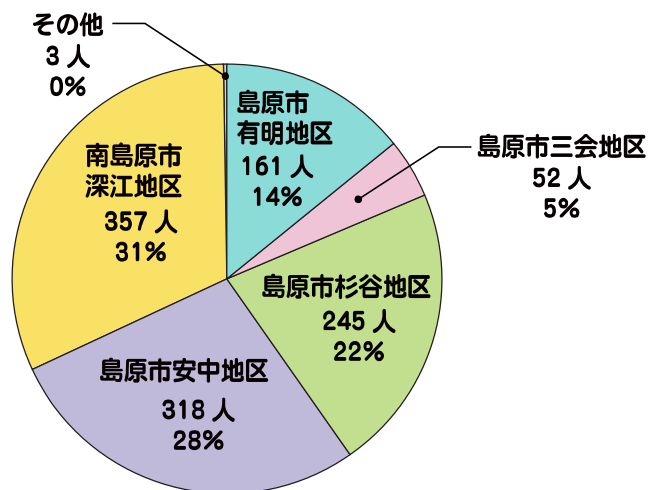
平成 2 年の雲仙普賢岳の噴火災害からの復興を図るため、平成5年度より開始した直轄火山砂防事業について、地域住民の方からの評価をいただき、その意見を今後の事業展開に活かしていくことを目的として、アンケート調査を実施いたしました。

その結果について、皆様方にご報告いたします。

## アンケート調査概要

- 調査対象範囲  
水無川・中尾川・湯江川の土石流被害想定範囲
- アンケート用紙配布期間  
平成 22 年 12 月 13 日～12 月 28 日（水無川・中尾川）  
平成 23 年 1 月 6 日～1 月 21 日（湯江川）
- 配布部数：6,060 部
- 回収方法：郵送による返送
- 回収部数：1,159 部
- 回収率：19.1%

## あなたの住まい（または事業所）はどちらですか？



地区毎の配布部数と回収部数

	配布部数	回収部数	回収率
有明地区	950	161	16.9%
三会地区	314	52	16.6%
杉谷地区	1160	245	21.1%
安中地区	1600	318	19.9%
深江町	2036	357	17.5%

(その他3、地区名無回答23)

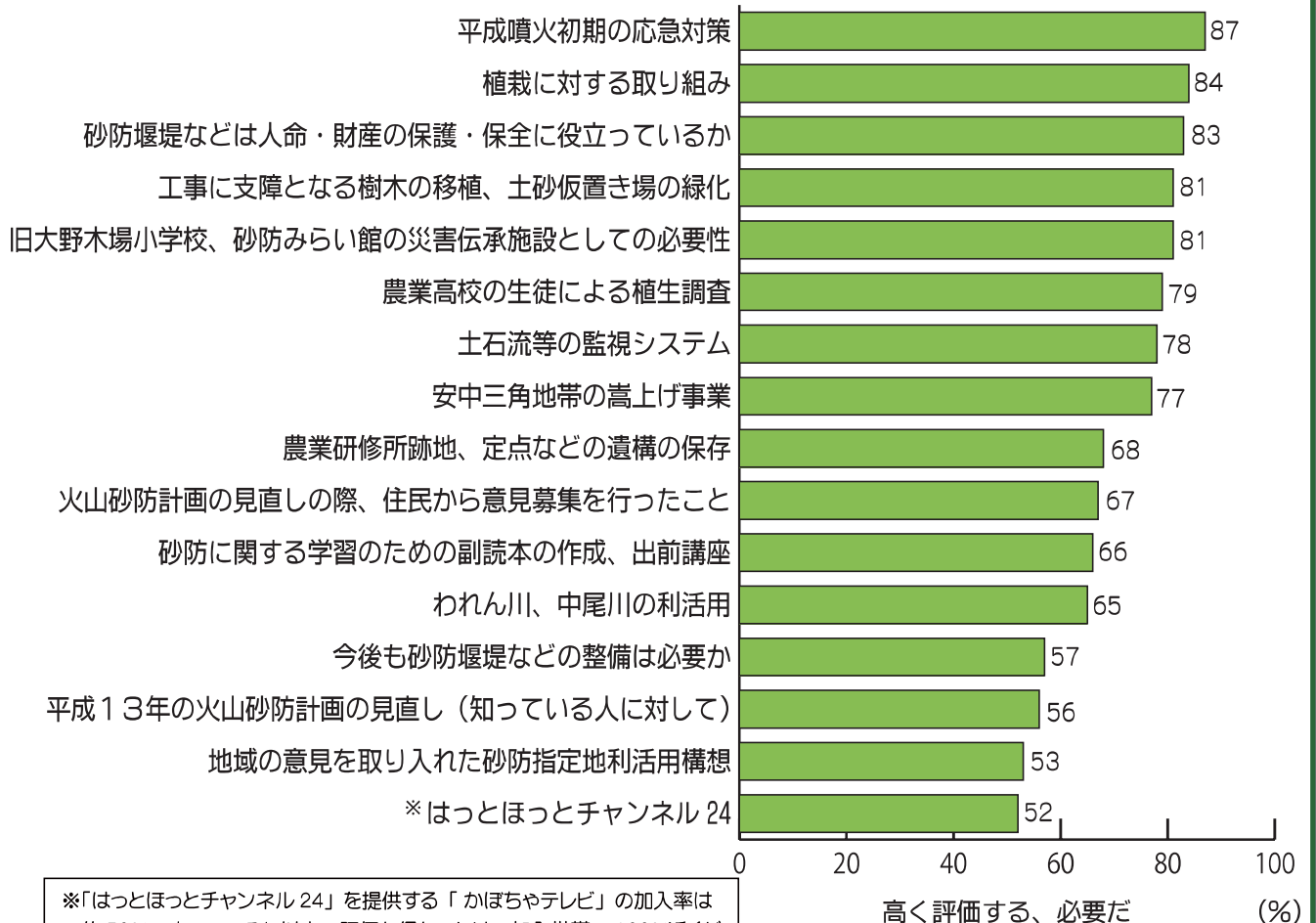
# 現在までに行ってきた事業に対する評価結果について

## すべての事業に過半数以上の高い評価

雲仙復興事務所が、平成 5 年度以降現在までに実施してきました「住民と一体となった各種事業」は、すべての事業において過半数以上の高い評価をいただき、住民から高く評価されていることがわかりました。

特に噴火初期の<sup>えんてい</sup>応急対策、植栽に対する取り組み、砂防堰堤などの効果、旧大野木場小学校や砂防みらい館の必要性、工事に支障となる樹木の移植については、80%を超える高い評価をいただきました。

### 各種事業を「高く評価する」「必要だ」と回答された割合



※「はっとほっとチャンネル 24」を提供する「かほちやテレビ」の加入率は約 50%ですので、それ以上の評価を得たことは、加入世帯の 100%近くが評価していると推測されます。

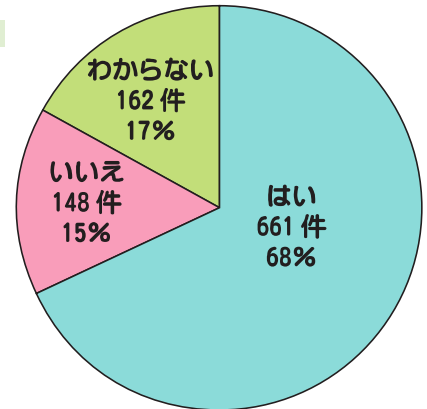
# えん てい 砂防堰堤などの整備に関するアンケート結果について

## えん てい 過半数以上から必要とされている砂防堰堤

えん てい  
57%の方が、今後も砂防堰堤などの整備が必要と思っていますが、今後の火山砂防計画の見直しについては、意見がわかれました。また、工事に関して提供すべき情報としては、「効果に関する情報を提供して欲しい」という意見が最も多い結果となりました。

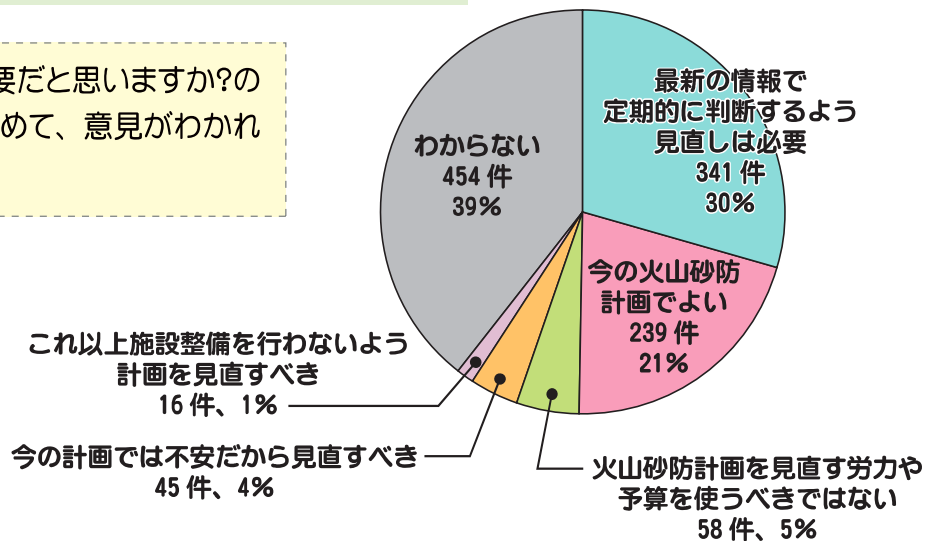
### えん てい 今後も砂防堰堤などの整備は必要だと思いますか？

えん てい  
砂防堰堤などの整備は、人命・財産の保護に役立っているか？の問いには、83%の方から「そう思う」との回答をいただきました。  
また、今後も砂防堰堤などの整備は必要だと思うか？の問いには、68%の方（回答全体に対しては、57%）が「はい」と回答されました。



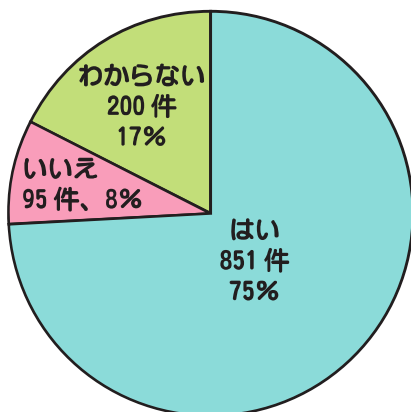
### 火山砂防計画の全面的な見直しが必要だと思いますか？

火山砂防計画の見直しが必要だと思いますか？の問いには、「わからない」も含めて、意見がわかれました。

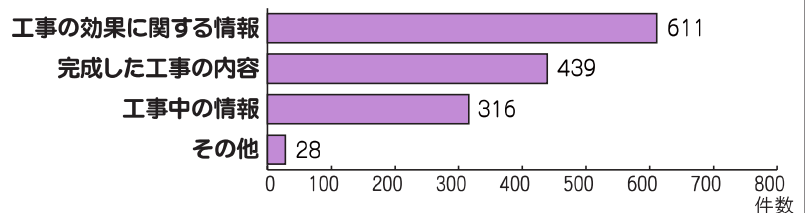


### 砂防施設などの整備の進捗状況等をもっと住民へ情報提供すべきだと思いますか？

砂防施設などの整備の進捗状況等をもっと住民へ情報提供すべきだと思いますか？の問いには、75%の方が「はい」と回答されました。その提供すべき情報（問 7-1）については、「工事の効果に関する情報」という意見がもっとも多い結果となりました。



#### 提供すべきだと思う情報の内容についてお聞かせ下さい。

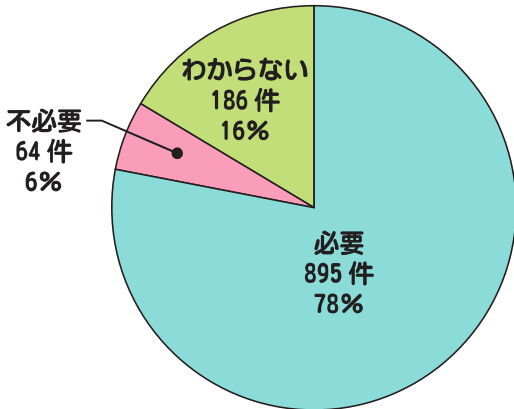


# 防災情報の提供に関するアンケート結果について

## ● 関心の高い溶岩ドーム。リアルタイムな情報提供が望まれています。

60%の方が、溶岩ドームに関心を持っており、「はっとほっとチャンネル 24」で他に提供する情報としては、土砂災害警戒情報、溶岩ドームに関する情報という意見が多い結果となりました。

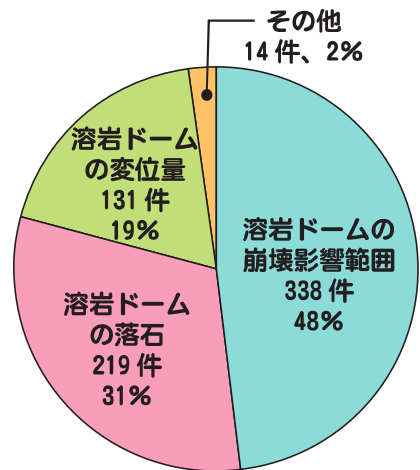
## ● 溶岩ドームの崩壊や土石流の発生を監視するシステムは、今後も必要だと思いますか？



溶岩ドームの崩壊や土石流の発生を監視するシステムについては、78%の方が「必要だ」と思っています。

## ● 現在の監視システムに加え、今後さらに必要だと思う情報は何かありますか？

約 6 割の方が、雲仙普賢岳の溶岩ドームについて関心を持っており、今後さらに必要な情報は、溶岩ドームの崩壊影響範囲についてでした。

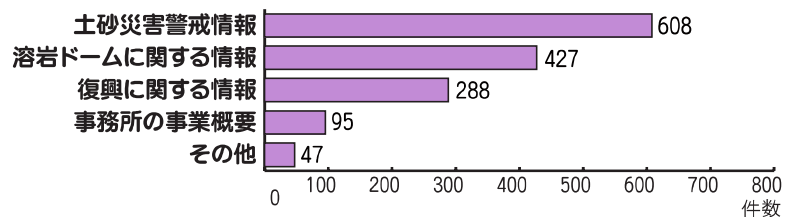


## ● 砂防施設などの整備の進捗状況等をもっと住民へ情報提供すべきだと思いますか？

はっとほっとチャンネルで他にどんな情報を提供すべきか？の問いでは、土砂災害警戒情報の回答が最も多い結果となりました。

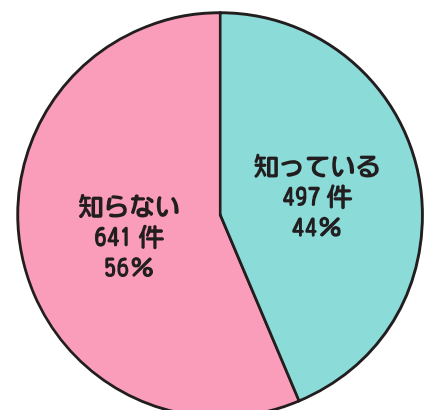
また、溶岩ドームに関する情報の回答も高い値を占め、リアルタイムの防災情報メディアとして期待されている結果となりました。

### 「はっとほっとチャンネル」で、他にどんな情報を提供すべきですか？



## ● 昨年 6 月に土石流が発生した様子を土石流監視カメラが映像を捉えました。このことをご存知でしたか？

昨年 6 月に発生した土石流の映像については、当時NHKでのニュース放映もありましたが、56%の方が、監視システムが映像を捉えたことを知らないと回答しています。



# 砂防指定地利活用に関するアンケート結果について①

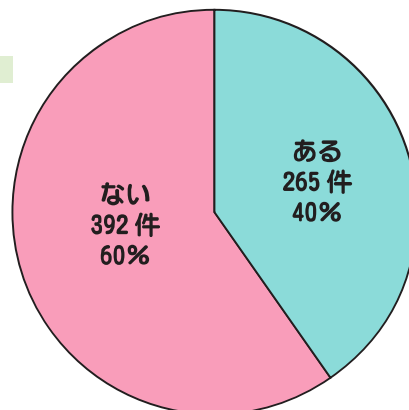
## 地域復興への支援に関して

### われん川、4割の利用者に対し、除草活動の参加者は1割

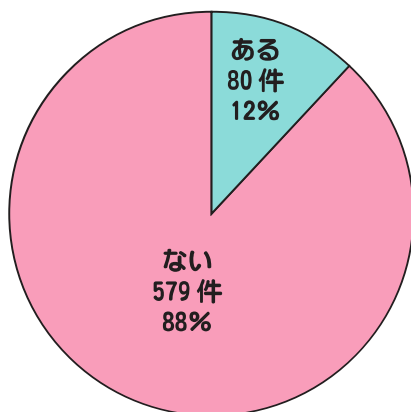
水無川流域の住民は、4割の方がわれん川を利用したことがありますが、除草活動に参加した住民は1割程度で、若い人ほど参加率が低くなっています。

#### われん川を利用したことはありますか？

水無川流域の住民の40%は、われん川での散歩やイベント参加などでわれん川を利用したことがあります。



#### われん川は、地元住民のご協力を得て、維持管理（除草等）がなされています。これらの活動（除草等）に参加したことはありますか？



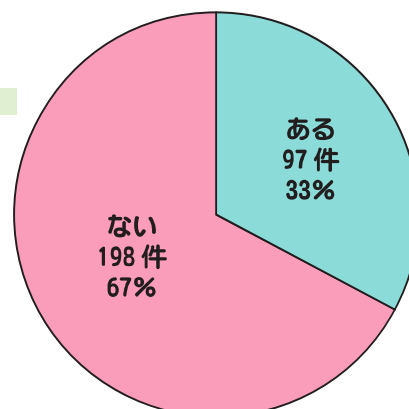
水無川流域の住民のうち、われん川の除草活動に参加した住民は12%です。参加者のうち、20、30代の若い人の割合は、10%ときわめて低い状況です。

### 中尾川導流工、遊歩道や散策路の整備が望まれています

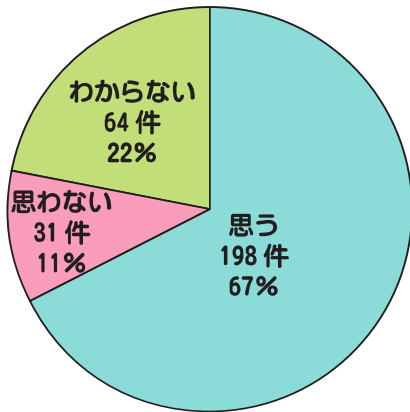
中尾川導流工における利活用では、遊歩道や散策路の整備を望んでいます。

#### 中尾川の導流工内の遊歩道や、遊砂地のゲートボール場などの多目的広場を利用したことがありますか？

中尾川流域の住民の33%は、遊歩道やゲートボール場などの多目的広場を利用したことがあります。

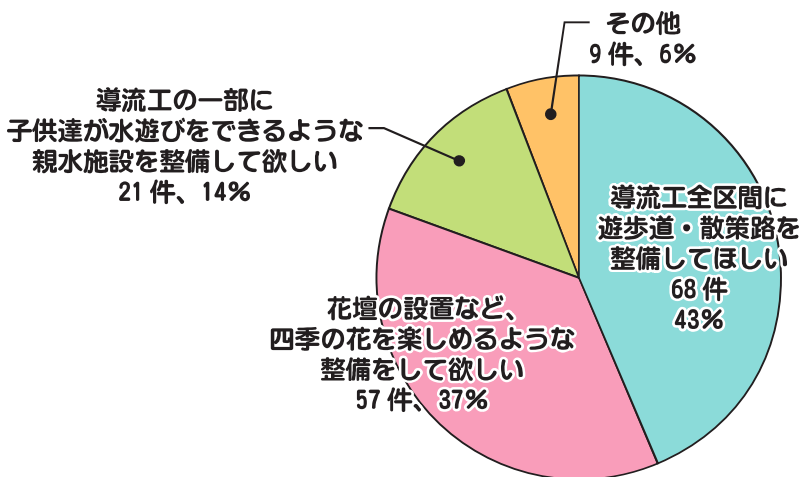


● 中尾川の導流工・遊砂地においては、今後も利活用計画にもとづいて整備が行われるべき  
 と思いますか？



中尾川については、中尾川流域の住民の 67% は、今後も利活用計画に基づいて整備が行われるべきだと思っています。

● どのような整備を望みますか？



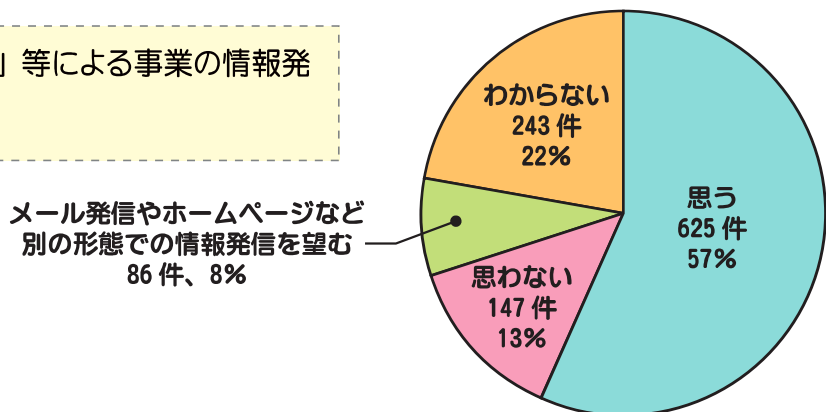
整備の内容については、43%が「導流工全区間に遊歩道・散策路の整備」、37%が「花壇の設置など、四季の花を楽しめるような整備」を望んでいます。

● 復活が望まれている「復興だより」での情報発信

2/3の方が復興だより等による情報発信を望んでいます。

● 雲仙復興事務所は、平成18年まで「復興だより」や「がまだす通信」を発行し、新聞折込で対象地域に配布し、復興情報を発信していました。これらを復活して、雲仙復興事務所が行っている事業の情報発信をしてもらいたいと思いますか？

57%の方が、「復興だより」等による事業の情報発信を望んでいます。



# 砂防指定地利活用に関するアンケート結果について②

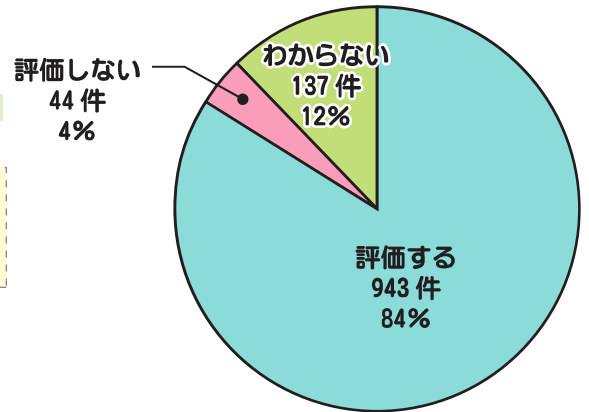
## 緑の復元に関して

**失われた緑の復元は、住民の願い!! 利活用地は地域一体となって維持管理!!**

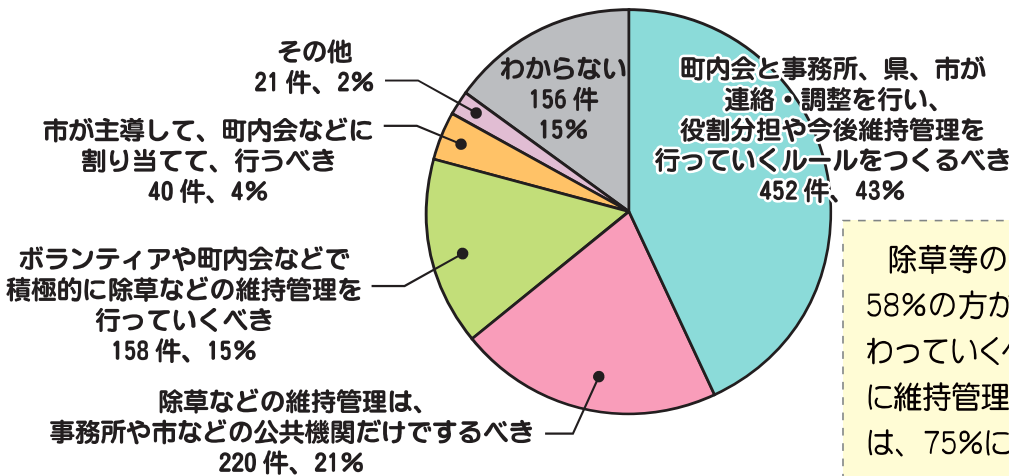
住民のほとんどの方が、失われた緑の復元に関心を持っており、除草等の維持管理活動については、58%の方が、町内会などが積極的に関わっていくべきと考えています。

**水無川導流堤や千本木地区など、雲仙での植栽に対する取り組みについてどのように思いますか?**

84%の方が、緑の復元への取り組みに対して、評価しており、関心を持っています。

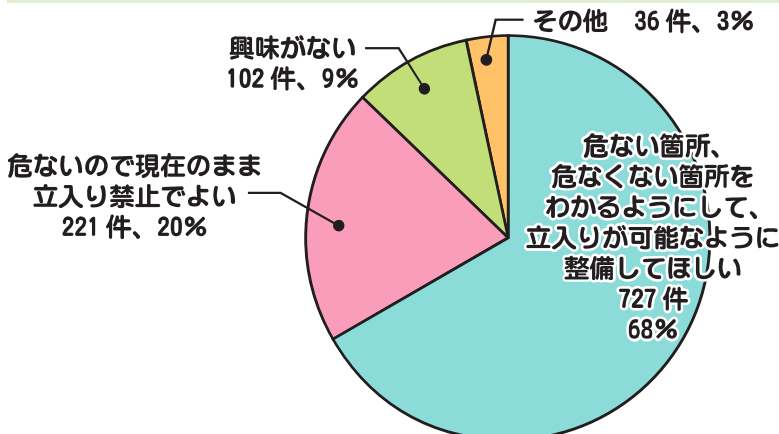


**水無川導流堤や、千本木地区の他に、われん川、中尾川導流堤、水無川1号砂防堰堤などでも、これら広大な砂防指定地の適正な維持管理（除草・整備）が大きな課題となっています。これらの地を維持管理していくために、事務所や住民でどのような役割分担をすべきだと思いますか?**



除草等の維持管理活動に関しては、58%の方が町内会などが積極的に関わっていくべきと思っています。実際に維持管理活動に参加した方の回答では、75%になります。

**中尾川千本木地区については、砂防指定地利活用構想により、植樹が進められています。しかし、現在植樹されたエリアへの立入りは出来なくなっています。このことについて、どう思いますか?**



千本木地区への立ち入りについては、68%の方が、危険な箇所等の表示をしてもらって、立ち入りできるよう整備を望んでいます。

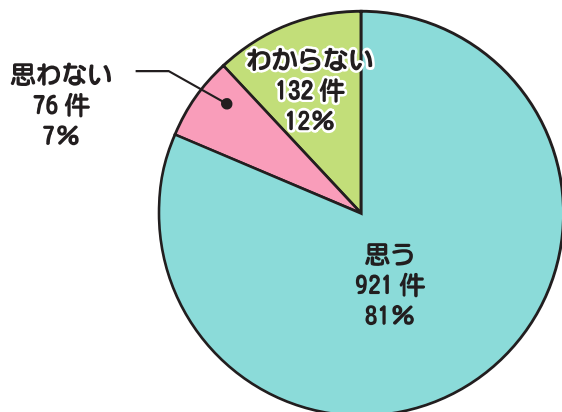
# 砂防指定地利活用に関するアンケート結果について③

## 遺構の保存に関して

### ● 後世への噴火災害の伝承施設は、整備して、もっとアピールすべき!!

旧大野木場小学校や砂防みらい館は、ほとんどの方から災害伝承施設として高く評価され、もっとアピールすべきとの意見をいただきました。農業研修所跡地・定点の整備については、半数以上の方から、整備すべきとの意見をいただきました。

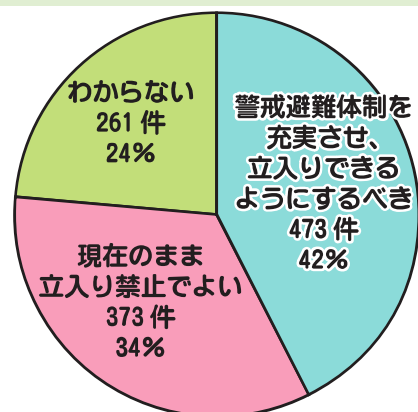
### ● 砂防に関する学習や、噴火災害を後世に伝承していくためのこれらの施設は必要だと思いますか？



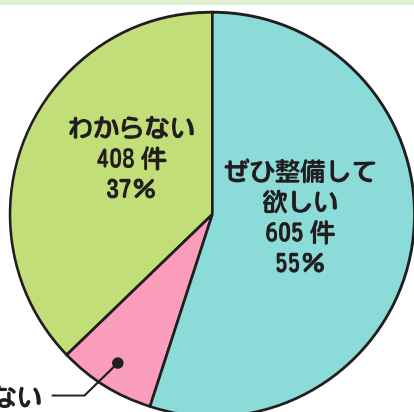
後世への噴火災害伝承施設として、旧大野木場小学校、砂防みらい館について、81%の方が「必要だ」と思っています。今後さらに多くの方にこれらの施設を利用していただくためには、「もっとアピールすべき」という意見を69%の方からいただきました。

### ● 農業研修所跡地（定点含む）周辺では、水無川の砂防工事中でもあり、また溶岩ドームの崩壊の危険性等も考慮して、現在積極的な立入りの制限が行われています。このことについて、どう思いますか？

農業研修所跡地・定点については、43%の方が「警戒避難体制を整備させて立入り可能に整備して欲しい」と思っています。



### ● 現在、定点付近の遺構の整備や、清水川などの遺構の保存などの要望が上がっています。これらについて、どう思いますか？



定点付近の遺構の整備や、清水川などの遺構の保存については、55%の方がぜひ整備して欲しいと思っています。



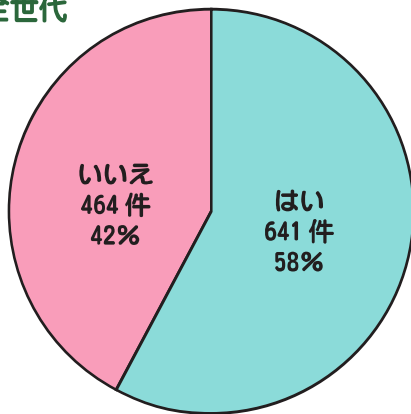
# 地域の防災力に関するアンケート結果について

## 年代が下がるほど低い防災意識

全体としては、地域の防災力は高いです。例えば、土砂災害警戒情報の認知度については58%と比較的高いです。ただし、20代、30代で低くなり、年齢が増す毎に高くなる傾向があります。

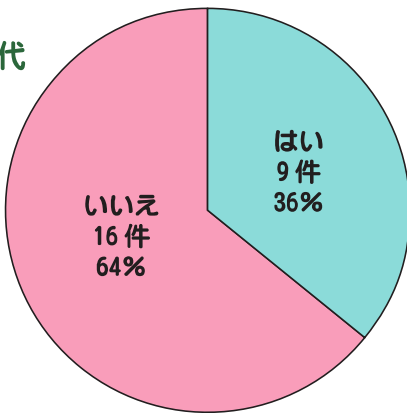
### 「土砂災害警戒情報」を知っていますか？

全世代

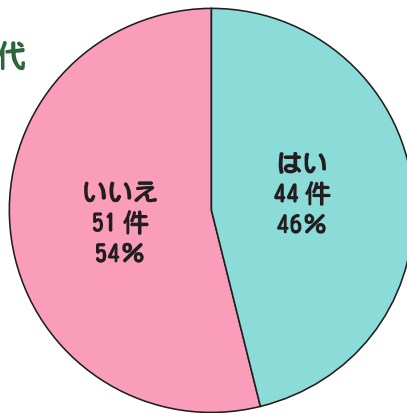


土砂災害警戒情報の認知度は、58%ですが、若い世代で低くなり、20代で36%、30代で46%となっています。

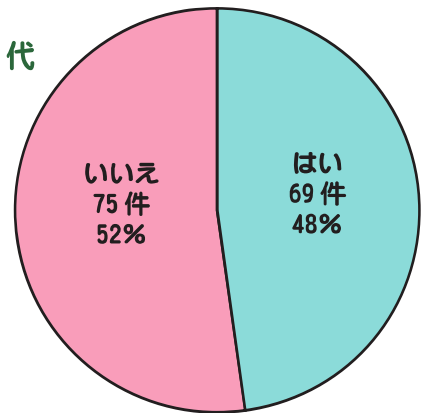
20代



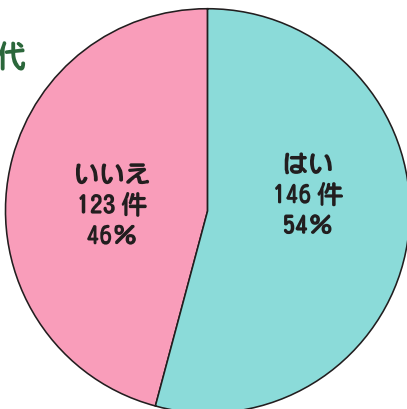
30代



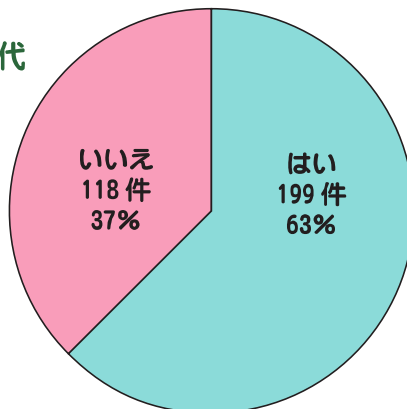
40代



50代



60代



70代

